



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

6月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

遊ぶ→遊べているか

さくらだこども園は子どもたちが遊ぶことを大事にしています。4月に入園した子どもたちも、2ヶ月の間に園での生活に慣れ、おうちごっこや砂場での遊び、先生や友達と追いかけてをしたり、室内に置いてある材料で思い思いのものを作ったりしています。年長児は一つ一つの遊びにじっくり取り組む様子が見られます。園庭で見付けた虫を飼育ケースに入れて様子を見、餌になりそうなものを入れたり、霧吹きで水をやったりしています。砂場での水遊びでは友達と一緒に大きな山を作ったり、代わる代わるバケツに水を汲んで川のように水を流そうとしたりしています。鬼遊びやリレーではルールの中で精一杯、力を発揮しようとしています。

こども園では「遊ぶ」という言葉を「自分が好きなこと、してみたいことを見付けて、自分の考えで行動していること」というように捉えています。遊ぶことはこども園の生活の中で一番大事なことだと言えます。

同じようなことをしているように見えても「遊べているのかな」と心配になることもあります。友達と一緒にいるけれど、いつも友達の言うことを聞いて行動しているような姿や、熱心に作っているように見えたのに、作ってもすぐに捨ててしまったり、置き忘れても思い出さずに過ごしていたりする様子が見えたときです。「自分で考えて行動しているのかな、人任せで楽しんでいるのかな」「自分の好きなことをしているのかな、安心できる過ごし方をしているのかな」と。友達がしている楽しそうな遊びを見付けて自分もしてみようと思うことは、遊びの始まりです。その中で、自分の思いを膨らませ、自分の考えで試しながら行動することが遊びです。例えば、毎日ブランコをこいでいる幼児が、日に日に大きくブランコをこげるようになるのは、遊びとして楽しんでいるからです。今自分ができることを何度も繰り返すことが楽しく、その中で「こんな風にしたい」との思いがあるからです。ですが、ブランコに乗ってはいても座っているだけ、という姿は遊べているとは言えません。

さくらだこども園では、一人一人の子どもが「自分はこれが好き！」「こんなふうにしたい！」という思いをもって「遊べる」子どもに育ってほしいと願っています。幼児期に好きなことやしてみたいことを見付けて遊んだ子どもは、好奇心旺盛に物事に向かい、困ったときにも様々に考えて自分から行動することができます。

ご家庭でも、子どもの遊ぶ様子を大人が口を出さずに、見直してみませんか。

— 今月の指導のめあて —

- < 4歳児 >
 - ・自分の好きな遊びをする中で、自分なりに動きや言葉で思いを表そうとする。
 - ・教師や友達に親しみや関心をもって関わり、学級みんなで遊ぶことを楽しむ。
 - ・色水や水を使った砂遊びなどの様々な水遊びをする中で、水に触れる心地よさや面白さを感じる。
- < 5歳児 >
 - ・興味をもったことやしてみたいと思ったことの実現に向けて、考えたり試したり工夫したりすることを楽しむ。
 - ・友達に自分の思いやイメージを伝えたり、友達の話を聞いたりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
 - ・水を使って遊ぶ中で、心地よさを感じたり、面白いと思ったことに繰り返し取り組んだりする。

